

新しい時代を
開く扉だ

NPOってボランティア?

NPOって稼がない
慈善団体?

NPOって胡散臭い

生きがいサポートセンター神戸西NEXT

〒654-0071 神戸市須磨区須磨寺町2-2-4
TEL 078-731-2251 FAX 078-735-0164
✉ next@ikigai.cc URL <http://www.ikigai.cc>

 Non Profit Organization
特定非営利活動法人 **しゃらく**

生きがいサポート
センター神戸西 

平成21年4月以降、開所時間等が変更される可能性があります。事前に
お電話やメールにてご確認ください。



NPO 100 の誤解

「NPOはボランティア」は正しい?

NPO100の誤解



Contents

03	ご挨拶 生きがいしごとサポートセンター神戸西NEXT センター長 小倉譲		
04	特別寄稿 NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 理事長 中村順子		
05	特別寄稿 NPO法人ブレーンヒューマニティー 理事長 能島裕介	12	まちのNPO観 専業主婦・退職者の場合
06	まちのNPO観 高校生の場合	14	まちのNPO観 非営利セクターの場合
08	まちのNPO観 大学生の場合	15	NPO法人のNPO観 NPO職員の場合
10	まちのNPO観 社会人の場合	16	NPO100の誤解 生きがいしごとサポートセンター神戸西NEXT センター長 小倉譲

「NPO100の誤解」

2009年3月20日 発行

発行 生きがいしごとサポートセンター神戸西NEXT／特定非営利活動法人しゃらく
発行人 小倉譲
編集 小嶋新・森田正純・山村昌彦・横山重信(生きがいしごとサポートセンター神戸西NEXT)
協力 須貝静(特定非営利活動法人しゃらく)
装丁 特定非営利活動法人しゃらく

※本冊子に掲載されている写真、イラストレーション、および記事の無断転載、使用を禁止します。

生きがいしごとサポートセンター神戸西NEXTは兵庫県の補助を受けて特定非営利活動法人しゃらくが運営しています。

ご挨拶

NPO法が施行されたのは1998年12月でした。昨年の12月で満10年を迎えました。私たちNPO法人「しゃらく」はNPO法施行後8年目の2006年の設立、NPO法人としては後発組です。

私たちは、NPO法人とは、社会を少しでも良くしたいという気概を持って活動する一つの事業形態だと考えています。

私たちは誇りを持って活動しています。しかし、世間ではNPO法人に対するイメージが歪んだまま一人歩きをしていることを実感することがよくあります。

例えば、セミナーなどに招かれて、NPO法人を説明すると、多くの人は「NPO法人とはボランティアを中心とした善意団体だ」と、あたかも「利益」を出してはいけないという誤解をお持ちのように感じます。

また、企業などで働くサラリーマンの方たちとお話する場合、活動の成果として、「お金をするの?」といわれる方もいらっしゃいます。

そもそも、「NPO法人みたいな善意団体は信用しない(できない)」といったコメントもあります。それだけではなく、「NPO法人って何?」と、聞いたことさえないとおっしゃる方もいらっしゃいます。

このように、NPOに対し、多くの誤解があるように思います。いや、誤解までもいかなくて、認知されていない現実もあるといわざるを得ないでしょう。それはひとえにNPOワーカーである私たちの情報発信が行き届いていないということを思い知らされます。

そこで、NPO法成立10年を機に、社会に暮らす多くの人にNPOに対する認識を高めていただき、誤解があるのであれば、その誤解を少しでも解消したい。そんな思いから、当小冊子「NPO100の誤解」を発行しました。どなたにでも眼を通していただけるよう、極力文字数を減らしたつもりです。ひとりでも多くの方に眼を通していただき、少しでもNPOに対する理解を深めていただければ幸いです。



NPO法人しゃらく 理事長
生きがいしごとサポートセンター
神戸西 NEXT センター長
おぐら ゆづる
小倉 譲

これまでの10年、NPOは新しい公の幕を開けてきた！

1995年の阪神淡路大震災、130万人のボランティアが、被災者の心に寄り添いながら、共助という市民性を復興活動の中で育んできた。神戸のNPOにとってこれまでの10年は、1998年成立したNPO法が重なりつつも、復興活動が魂に深く刻まれた原点となっている。

私はボランティア活動を始めて25年以上になるが、大震災以降をざっくりこれまでの10年とみるとNPOほど急成長を遂げた分野はやってないと思っている。NPO法制定以来10年で35,000法人が誕生し日本随所で公益サービスを展開し、そのサービスの対象者は3000万人を超えると推測できる。NPOで生計を立てる常勤スタッフは推定4万人、サービスや経営、寄付等各々のスタイルで関わるボランティアは100万人以上、取り組むテーマは、子どもから高齢者、環境から救援、地域経済から国際交流、消費活動から人権問題と二 dozen の数ほど多様である。兵庫県の1,300法人は130億円（2007年度）の事業規模となった。またコミュニティ・サポートセンター神戸（CS神戸）もそうであるが、中間支援組織といったNPOを総合支援し行政や企業とも関係づくりを行うNPOが、民間主導で活躍しているのも特徴である。今やNPOの存在を知らない人は20%を切る。

言ってみれば、公益サービスを政府に依存してきた過去から、市民が主体的に社会問題に向き合い解決の担い手になる公益性と自立性をしっかり学習してきた10年であったと総括できる。NPOのミッションである新しい公益サービスの創出と新しい価値の創造を高く掲げ、ようやく市民自らの手で新しい公の幕を開けたのである。

<とはいえ、課題も多い！>

人材・資金・ネットワークがNPOにおける3大課題ではないだろうか。

必要な人材が不足しているために資金調達もままならず、人や組織そしてセクターを結びつけるネットワーク構築にも労力を割けない。必要な人材とは、新しい公の実現に寄与できる勇気ある人々である。これら

NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸
理事長 中村順子



の課題はNPOの共通認識となり始めたが、解決に向か大同につくネットワーク力には至っていない。

制度や仕組みができると、当初のミッションや自然な人間の振る舞いが失われがちになる。新しい社会サービスが順調に推進できなかったり、新しい価値創造が、行政の新下請け機関へと変質してしまったり、紆余曲折の実態が散見できるが無理もない。100年も官の管理下にあった公の領域に、市民が裸同然で法人格だけをまとい参入したのだから、混乱なくして次の道筋は見えない、たかが10年、あせることはない。

<これからの10年、NPOは新しい公の中核になる！>
自分の持てる能力や時間を社会のために使いたい希望者は50%近い。私を含む団塊世代は1日8時間の可処分時間という財産を持って会社から放たれた。

就職先にNPOを選択する学生もいる。震災をきっかけとしない若者がNPOで活躍している。財産は公益に寄付したい個人も増加傾向にある。政府セクターは、法令策定や事業委託など政策形成からサービス供給に至るプロセスでNPOに期待をよせる。企業セクターは、CSR（企業の社会的責任）やWLB（ワークライフバランス）運動の中でようやくNPOとの価値観の出会いが始まった。統計ではなく、日常の相談や行政・企業との企画打ち合わせで確かな手ごたえを感じている。

社会を構成するセクターの交流が活発化し、市民個人も納税者、投票者、勤労者、消費者、生産者、そして公益の担い手と多彩な顔を持つようになってきた。社会資源のダイナミックなマッチングが本格化する時代をもっと身近に引き寄せたい。

少子高齢産業過減の日本にあって、異なったセクターが協働し新しいサービスや価値を創造しなければ、ぎすぎすした冷たい社会に陥ってしまう。公益法人制度改革で市民非営利セクターへの参入は選択肢が拡がるが、NPOに所属する私たちは草の根活動も大切にしながら、ひとりひとりが生かされる社会の実現に向か、新しい公の中核になることを誓いたい。10年先の振り返りが楽しみである。

兵庫県内のNPOをリードするお2人に聞いた。『NPOこれまでの10年、これからの10年』

NPOはなぜ胡散臭いか？

NPO法人ブレーンヒューマニティー
理事長 能島裕介



構図を利用しようとしたことの副作用でもある。

そんな状況において、NPOのこれまでの10年を俯瞰したときに、NPO自体の信頼性はひどく失墜していると思う。そもそもNPOをひとくくりにして、「NPOは」とか「NPO法人は」とか論じること自体がナンセンスである。仮にどこかの株式会社が不正を働いたとしても株式会社全体の信頼が失墜することはない。単に利益を分配せず公益活動を行うといった特徴を持つ組織がNPOと総称しているに過ぎないし、NPO法人といえども、数ある法人制度の一つにしか過ぎない。にもかかわらず、「NPOは信頼性が高い」とか「NPOの信頼が失墜した」とかの議論は非常に乱暴だろうと思う。

これからの10年を見たときに、間違いなくNPOの淘汰が行われる。そんな中で生き残るためにには「NPOは」とか「NPOセクターは」といった一般的な論じ方を脱却し、「私の団体は」とか「私の法人は」といった個別的な努力が必要になるだろうと思う。株式会社の中にも良い会社と悪い会社があるように、NPOの中にも良いNPOと悪いNPOがある。そんな当たり前のことときちりとNPOで働く私たち自身が自覚し、市民に対しても自分たちの団体の信頼性を高めるような努力をするべきだと思う。

まちのNPO観 高校生の場合

高校生の声

今困っている人を助けます。分からない事があれば相談しよう。そんなNPOが大好きだ。
(高校生)

救済ってイメージ。
(高校生)

ボランティアってイメージ。
(高校生)

自分のためじゃなく、人のために働いてくれる人たち。
(高校生)

NPOについてよく**分から**ない。
(高校生)

名前は聞いた事があるけど、何をしているのかイメージがわかない。
(高校生)

ボランティア活動、非営利組織。
(高校生)

地域の屋台骨!!
(高校生)

みんなの**笑顔**のためにボランティア活動をしている人々!!
(高校生)

心ある人が集う団体。
(高校生)

必要不可欠なパートナー!
(高校生)

NPO=非営利組織は習ったけど、正直授業で習ったことしか知りません。なんとなく、ボランティア団体の超規模のかいやつぐらいのイメージしかないです。民間の組織だということは知っていますが。
(高校生)



編集者のつぶやき

神戸西部のある高校の卓球部の皆さんに集まっていたら、アンケートを実施しました。高校生という若い人たちのイメージとしてはどんな反応があるのか、不安と期待が入り混じっていました。前向きなイメージでとらえていただいている人が多いことに感動しました。

「地域の屋台骨」、「必要不可欠なパートナー」といったメッセージはNPOで働く私たちには非常にうれしいものです。NPOの未来も明るいかなと感じるメッセージです。

ここで高校生も含め、皆さんに知りたいのは、「持続可能な社会活動」を行うために、ビジネスとしてNPO活動をしているところもあるということです。

まちのNPO観 大学生の場合

大学生の声

お金を稼ぐことを目的としていない団体と認識しています。ボランティア活動に近いのかな、と思います。
(大学生男性)

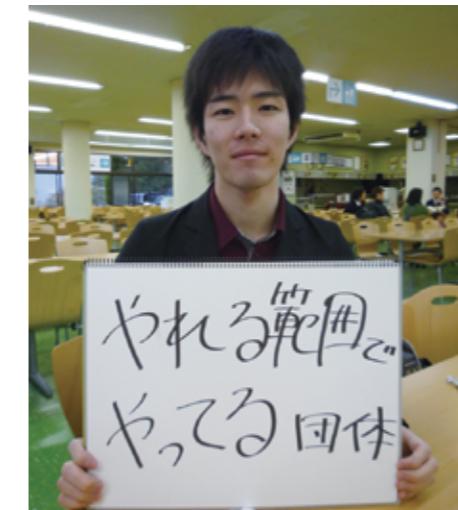
やっている範囲が広そう。何ていうか、カテゴリーがたくさんある感じ。
(大学生女性)

将来かかわりたい。他の企業や団体と比較すると、利益を追求しすぎないいいイメージがある。
(大学生男性)

“非営利”という言葉から、やはり企業活動の対象となる「社会の穴」を埋める存在というイメージがある。

信念の一つで活動を行えるという感じがありますが、資金等の面はどうなっているのだろうという疑問があります。
(大学生男性)

「非営利団体」という言葉から、本当にやりたいという強い気持ちを持っている人でないと続けていけないようなイメージがあります。
(大学生男性)



編集者のつぶやき

いただいたコメントにある「社会の穴を埋める存在」というイメージ、まさしくその通りだと思います。新しい公として、公共サービスでは制度の射程距離外と位置づけられ、手が届きそうで届かないところをNPOが対応しているケースは多くみられます。

この大学生の皆さんコメントには、精神面における「きつい」、「強い気持ち」などが印象的です。現実は、仕事としてNPO活動をしている以上、きつくても強い気持ちを持って活動している人がほとんどです。「苦痛」に感じている人は少ないのではないかと思います。

「お金を稼ぐことを目的としない」というコメント、確かにそうです。ただ、目的ではなくて、お金を稼ぐことは手段だと思います。地域や社会の課題を解決するというのが目的で、活動を維持するために資金は必要になります。もちろん、人件費だって必要です。だとすると、目的を達成するために、資金を獲得する。あるいは活動を通して収入を上げていくことが必要であるとわかっておいていただきたいですね。

まちのNPO観　社会人の場合

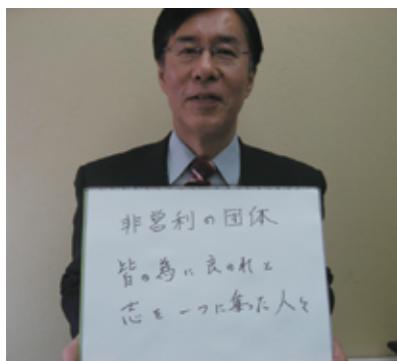
社会人の声



非営利の団体。ボランティア活動。
20代男性(会社員)

非営利組織ということしか知りません。
20代男性(会社員)

特定の利益追求を目的としない。特定
社会貢献の実現のために
集まった集団。
20代男性(会社員)



NPO という言葉は知っているが、どういう活動をしているのか詳しく知らない。
30代女性(会社員)

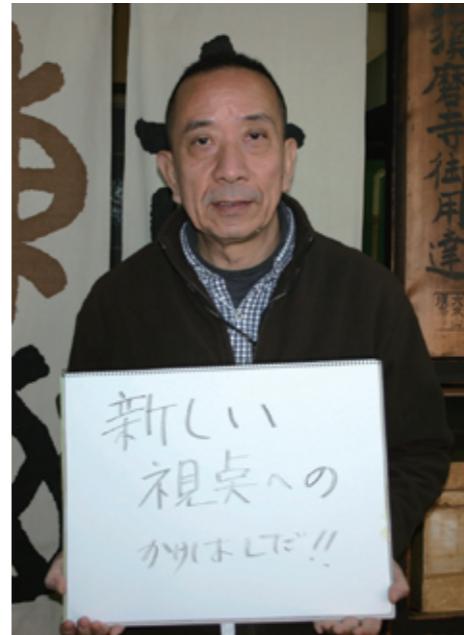
ボランティアで活動している団体ということしか知らない。
60代男性(自営業)

営利を目的としない団体。100%ボランティアなら、活動費はどこから出て、どうなっているのか疑問に思っている。
30代男性(会社員)

ボランティア団体と思う。
30代男性(会社員)

営利を目的としたものではなく、個人や社会のために役立つ(貢献する)ような活動を目指す。
20代男性

身近に感じますが、実態がよく解かりません。
50代男性



非営利法人・社会貢献・珠玉混合。マジメで素晴らしい団体がある一方、悪用している団体もあり要注意!!
30代男性(大学関係者)

何やっているのかわからないが、ボランティア組織のイメージがある。炊き出しとかやってそう。
30代女性(大学関係者)

もうけのためではなく、**信念・志・思い**のために行動している団体
40代男性(大学関係者)

ボランティア精神がベースの印象。規模・活動内容・資金などばらつきがありそう。
30代女性(大学関係者)

楽しそう、一方でややマニアックなイメージも?たまに「?」と思う団体があって見きわめが難しい。
30代女性(大学関係者)

編集者のつぶやき

「人の心と心をつなぐ接着剤且つ潤滑油」というコメントに座布団1枚!! これもNPOワーカーとしてうれしい言葉。NPOとは、「人ありき」の存在だと私は思っています。だからこそ、完全にシステム化された仕組みなどでは実現できない「NPOらしさ」というものがあり、それを表現してくれた言葉です。

今後、NPOセクターも企業との連携が大切になります。企業も地域の一員として、またCSR(企業の社会的責任)の一環としてよきパートナーとなる必要があり、その可能性を感じさせるコメントだと思います。

分からぬ。

60代男性(商店主)

人の役に立つこと、困っていること、助ける仕事。
70代男性(商店主)

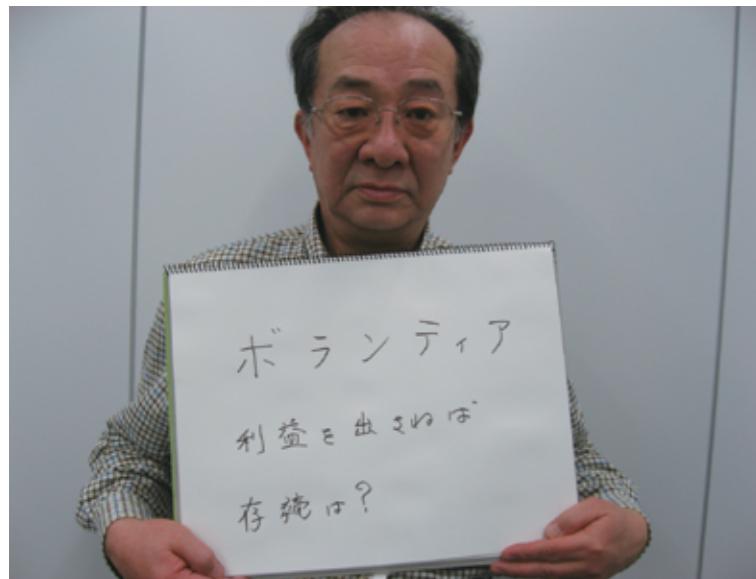
人を助けることをしている。
70代女性(商店主)

人を助けたりしている。
40代女性(商店主)

ボランティア団体、利益を度外視して人のために世のためにやっている。
40代男性(商店主)

まちのNPO観　主婦、退職者の場合

主婦 退職者の声



NPOとは困った人を助ける優しい団体である。

50代女性

お金もうけはしてはいけない団体である。

50代女性

利益を目的にせず、社会貢献のために集い、活動する。

50代女性

ボランティア団体。

50代女性

国からの支援のあるボランティア団体。

50代女性

内容はわからない。

50代女性

ボランティアから出発して NPO 法人を作り、いろんな分野の仕事を民間事業者に代わって行い、従事者の交通費、それなりの報酬を出せるような団体が増えるといふと思っている。

50代女性

どんな分野でも「NPO」をだしに作って活動できる団体である。

50代女性

利益を考えず

にいろんな面で活躍している人たち。

60代女性

よく聞きますが、実際の活動、グループ等はよく知らないのが現状です。

60代女性

NPOとはボランティア活動をしている民間団体である。

60代女性

非営利。クリーン。

60代女性

よく分かりません。

60代女性

いまひとつ解かっていない。

60代女性

環境づくりから始めよう。

60代男性

Non Profit Organization 分野が広すぎて実体がわからない団体あり。
60代男性

レベルの差があるイメージ。
40代女性

自分から進んで喜びを持って参加できる活動でありたい。
60代男性

NPOは鼻持ちならない。
50代女性

NPOとは社会貢献？

60代男性

積極的な無料奉仕。

60代男性

ボランティアの団体。
NPOの詐欺に気をつける。

60代男性

高尚な趣味を活かそうとするボランティア活動の一環だと考える。

60代男性

奉仕と社会貢献。

60代男性

うさんくさいイメージ。実態がよくわからない。

40代女性

思いが熱い感じだが、責任体制はどうなっているのか、と思う。

40代女性

非営利奉仕団体。

70代女性

NPOは人の生きがい。
50代女性

国とか行政では手続き上補うことのできない部分(事柄)を利益を目的とせず問題解決に取り組む組織。
60代男性



編集者のつぶやき

このカテゴリーの皆さんの中には、ネガティブなものが多いように思います。皆さんの人生経験の中でNPOの存在は希薄だったといえるでしょう。

「実態がよくわからない」とか、「NPOは鼻持ちならない」という言葉があるように、我々NPOが情報発信をきっかけしていないことも一つの原因であると思います。また、いろんなNPOがある中で、まだ社会的にNPOの立場が低いのかも知れませんね。NPOセクターだけでなく、いかに社会にNPOの存在をアピールするか、今後の宿題を頂きました。



まちのNPO観 非営利セクターの場合

非営利
セクターの
声



何をしているのかな?財源はどうしてるの?

30代女性(非営利セクター)

やる気のある人の集まり。

30代女性(非営利セクター)

福祉とボランティア活動をされている団体
を思い浮かべます。

30代男性(非営利セクター)

情熱と熱意。

20代女性(非営利セクター)

幅広く活動。

20代女性(非営利セクター)

あったかい感じ。

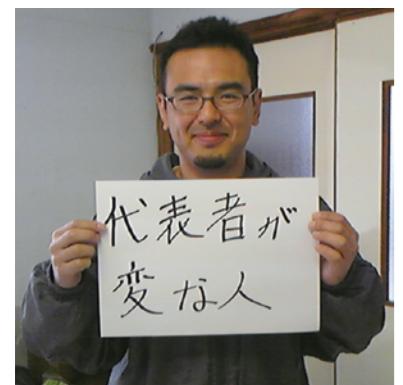
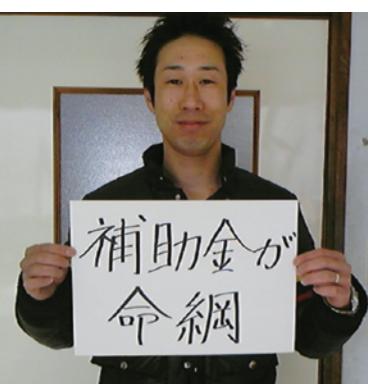
40代女性(非営利セクター)

みんなが一生懸命!!

20代女性(非営利セクター)

もうけてはいけない会社。

40代女性(非営利セクター)



NPO 法人のNPO観

NPOとは、社会や人が変化する現場である。

30代男性(NPO法人スタッフ)

非営利活動組織NPOは、自治会活動も含まれますし、ボランティア活動団体も含まれます。そういう活動が継続性と責任の所在を明確にするために、法人化したものが、NPO法人。継続性・自立性のために、収益を確保し事業化してゆく過程が、コミュニティビジネス。

NPO法人は、社会貢献を目的とする法人で、営利を目的としないが、継続性のために収益を確保しながら事業する法人。

ボランティア精神を保ちながら、自立・継続のために対価は求める法人。

50代男性(NPO法人スタッフ)

NPOとは新しい生き方です。

30代男性(NPO法人スタッフ)

営利追求型システムではできない(やりにくい)事業を形にしていく。その結果、社会に少しでも役に立てたならば、それってみんながハッピーになれるんじゃないかなと思う。

20代男性(NPO法人スタッフ)

ボランティアとの違いが分からない。

30代男性(NPO法人スタッフ)

ボランティア団体・活動奉仕団体。

60代女性(NPO法人スタッフ)

NPOに参加してまだ日が経ちません。未だわかりません。利益を目的としない団体。

50代女性(NPO法人スタッフ)

NPOとは行政を安い財源で補完している、情熱がないと継続できない市民活動団体である。

50代女性(NPO法人スタッフ)

人のつながり。

60代男性(NPOスタッフ)

何もかもが大変。

50代女性(NPO法人スタッフ)

何回も聞かないと理解できない。

60代女性(NPO法人スタッフ)

清潔な感じ。

50代女性(NPO法人スタッフ)

勉強の場。

40代女性(NPO法人スタッフ)

楽しく活動する。

40代女性(NPO法人スタッフ)

ミッション活動の場。

60代女性(NPO法人スタッフ)

地域の社会的問題を解決する。

40代男性(NPO法人スタッフ)

NPO 100 の誤解

NPO 誰でも早わかり !!

そもそも NPO って何?

NPO という言葉 → 民間非営利組織を指す

NPO とは「特定の社会的目的を追求するため、営利を目的としない民間の自発的な組織であって、政府から独立した社会サービスを提供している団体」です。

ポイントは、「営利を目的としない組織」ということです。そう考えると、学校や病院、社会福祉法人や公益法人なども「NPO」の一種となりま

す。ただし、注意しないといけないのは、「民間の自発的な組織・政府から独立した」という表現です。多くの公益法人(公益財団・公益社団)等は、政府が運営していることが多いえ、政府からの許可が必要であったり、様々な指導に入るため、自発的かつ自由な活動が難しく、民間非営利組織とはいえないという声もあります。

められた 17 の分野」、非営利とは「余剰利益を分配しない」ということ。

■ポイント 1 対価と非営利とは別の話 !!

NPOにおいて、サービスやモノの販売などをして対価を得ても何の問題もありません。「非営利」だからと言ってサービスを無償にしなければならないわけではなく、事業や活動を通して得た利益を団体の構成員に分配しないことが「非営利」という意味なのです。「利益」が出た場合、NPO が行う事業や活動に投資をすれば、問題ないです。

■ポイント 2 無報酬と非営利との関係 !!

NPO も持続可能な事業や活動をするためには、

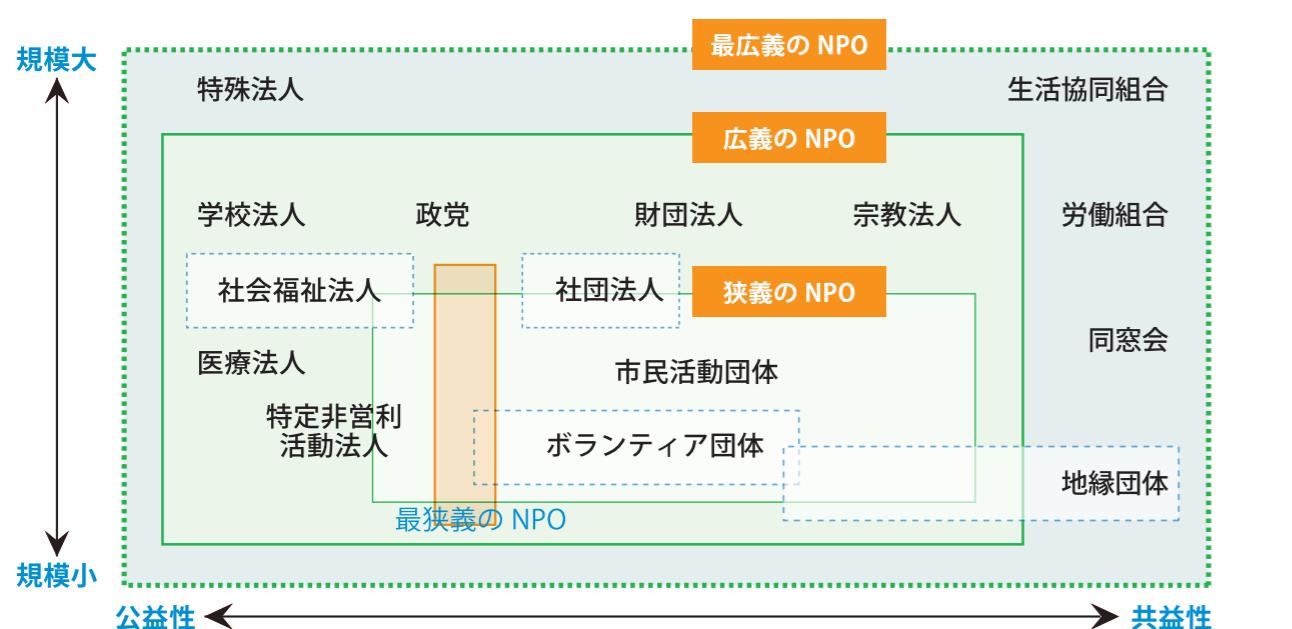
有給のスタッフを雇うことも必要になります。その給与などは、事業や活動の経費であって、利益の分配には該当しません。要するに、個人が労働の対価をもらわない「無報酬」と組織が利益を分配しない「非営利」は別の概念になります。

■ポイント 3 公益のための活動 !!

NPO 法では、特定の個人や団体の利益(私益)、構成員相互の利益(共益)は禁止されています。

要するに、「自分たち」という閉ざされた範囲の利益のために事業や活動の展開をするのではなく、「この事業・活動を必要とする人」という開かれた対象の利益のために活動が行われていることが謳われております。

マトリックス



NPO 法人とは → 特定非営利活動法人を意味する。

NPO 法とは、1998 年 12 月 1 日に「民間の自由な社会貢献活動を促進することを目的に施行された法律です。

NPO 法施行の機運が高まったのは、1995 年の阪神・淡路大震災のときに、多くの NPO が被災

地に駆けつけ、ボランティアとして大活躍したことが社会的評価を上げ、「市民からも、行政からも公共サービスを提供できる存在」として注目を集めたことが契機となりました。

特定非営利活動法人の特定とは「NPO 法に定

「いろいろあるぜ NPO」／マトリックス

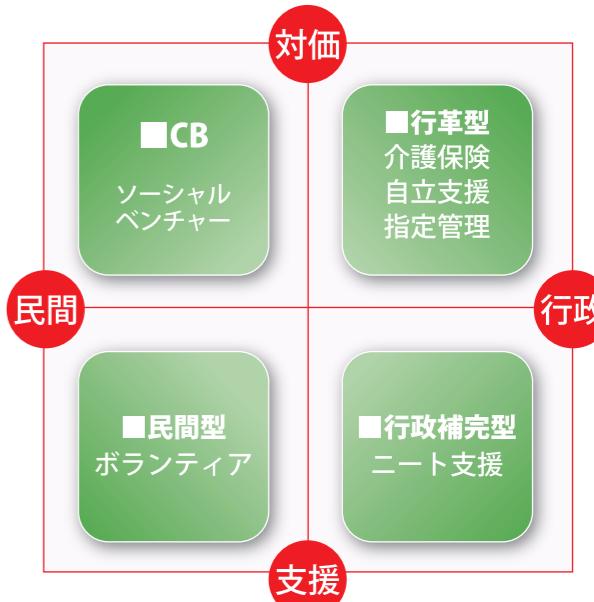
昨今、いろんな性格の NPO 法人があるにも関わらず、マスメディアでは NPO 法人の活動を「神戸の NPO」といったひとくくりにする傾向があります。その為、いろんな誤解が生まれているように思います。

NPO 法人といっても、いろいろな組織があることを皆様に知ってほしいと思います。

NPO 法人の活動は、サービス受益者から全く対価を得られないか、十分に得られない事業や活動もあります。そのため、行政や財団法人と協働して事業を展開する NPO 法人もあれば、参加人数も多く活発に活動しているにもかかわらず、ボランティア中心で予算規模の小さいといった NPO 法人もあります。また、株式会社と同じ市場で受益者から対価を得て事業を展開している NPO 法人だって存在します。

すべてが「社会的なサービス」を提供している NPO 法人であることに間違いはありませんが、

法人によっては考え方などが異なるのは当然ですし、経営手法も異なります。だからこそ、いろんな NPO 法人があることを、是非とも知って頂きたいと思います。



NPO 100 の誤解

誰でも早わかり!!

□事業型 ソーシャルベンチャー / コミュニティ・ビジネス

事業型の NPO 法人は、競争原理のある市場で事業を展開しています。資金の流れが、政府や行政からではなく、一般市場において、受益者負担をベースにビジネスを展開している NPO 法人です。そういう意味では、株式会社などと競争しながら、社会性を打ち出してビジネスを行わないといけません。ソーシャルベンチャー型 NPO 法人は、まだ市場において浸透していない段階ですが、今後の成長が期待できると考えています。

また、コミュニティ・ビジネスとは、地域の課題を地域の資源を活用して、ビジネスの手法で解決することをいいます。こちらも、受益者負担を原則としていますが、事務経費の維持や有償ボランティアを中心としているケースが多いと感じます。

□民間交流型 ボランティア・小規模 NPO

おそらく、多くの方はこの分野のイメージが強いと思います。ボランティアを中心とした NPO 法人であり、スタッフ自身が活動の費用を

負担しているケースがほとんどです。NPO 法人の数をみてもこのカテゴリーに入る NPO 法人が多いように思います。

□行革型（準市場型） 介護保険・自立支援法・指定管理など

医療や福祉分野などの公的サービスにおいて、市場原理を導入し、サービス提供者を競争させることにより、効率的で質の高い対人的サービスが提供されるよう政策が設計されるようになった市場を準市場といいます。

つまり、この分野の NPO 法人は行政から得る資金がほとんどではありますが、株式会社などの競争原理が働く市場もあります。

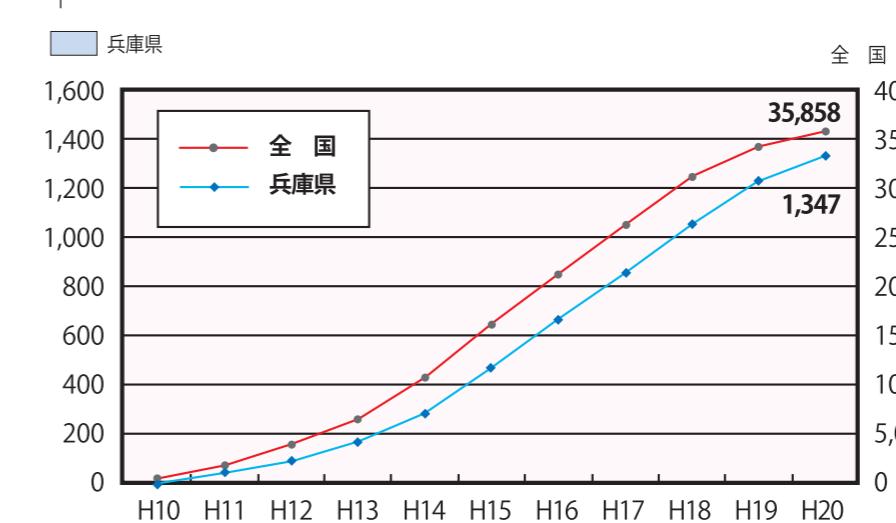
※このカテゴリーの NPO 法人も事業型 NPO 法人と言われることもあります。

□行政補完型

上記 3 タイプの NPO では、特にその活動内容によって、受益者から対価を得にくいことがあります。里山保全や、NPO を支援する中間支

援と呼ばれる活動もその中の一つです。そういった場合、行政や財団法人などから助成金・補助金・委託金を活用し、運営します。

全国・兵庫県 NPO 法人認証数推移



年度	兵庫県	全国
H10	0	23
H11	45	1,724
H12	102	3,800
H13	171	6,596
H14	289	10,664
H15	472	16,160
H16	670	21,280
H17	861	26,394
H18	1,061	31,115
H19	1,233	34,369
H20	1,347	35,858

兵庫県内活動分野別一覧

(平成20年12月21日現在)			
活動分野	合計	比率	順位
① 保健、医療又は福祉の増進を図る活動	811	60.2%	1
② 社会教育の推進を図る活動	592	43.9%	3
③ まちづくりの推進を図る活動	651	48.3%	2
④ 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動	397	29.5%	
⑤ 環境の保全を図る活動	290	21.5%	
⑥ 災害救援活動	49	3.6%	
⑦ 地域安全活動	91	6.8%	
⑧ 人権の擁護又は平和の推進を図る活動	193	14.3%	
⑨ 国際協力の活動	176	13.1%	
⑩ 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	82	6.1%	
⑪ 子どもの健全育成を図る活動	507	37.6%	5
⑫ 情報化社会の発展を図る活動	84	6.2%	
⑬ 科学技術の振興を図る活動	35	2.6%	
⑭ 経済活動の活性化を図る活動	120	8.9%	
⑮ 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	223	16.6%	
⑯ 消費者の保護を図る活動	49	3.6%	
⑰ 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動	510	37.9%	4

注：1つの法人が複数の活動分野を行う場合があるため、合計は100%にならない。